

新型コロナウイルス感染症 感染対策（入院後 PCR 結果待ちの場合）

（Bパターン）

新型コロナウイルス感染症の感染確定例及び感染疑い例には標準予防策を徹底し、さらに感染経路別予防策として接触＋飛沫感染予防策を行う。

対策のポイントは

- ・ウイルスを含む飛沫が目、鼻、口の粘膜に付着するのを防ぐこと
- ・ウイルスが付着した手で目、鼻、口の粘膜と接触するのを防ぐこと

① 病室	原則個室管理。 患者はサージカルマスクを装着する。
② 個人防護具 エプロン/ガウン、 マスク、 フェイスシールド、 手袋、（キャップ）	着用手順：入室前はまず手指消毒。 その後エプロン/ガウン、マスク、フェースシールド、手袋を装着する（患者との接触が少ない場合はエプロン、密接した介助が必要な場合はガウンを装着する）。 なるべく患者とは2m以上の距離を保つ。 咳のある患者の部屋に入室する場合は新しいサージカルマスクを装着し、退出時に破棄する。 大量のエアロゾルが発生しやすい気道吸引、気管挿管、心肺蘇生、用手換気、ネブライザー療法などを行う場合はN95マスクを装着する。 基本的には非侵襲的陽圧換気(NPPV)は行わない。 脱衣手順：まず手指消毒。その後手袋、フェースシールド、エプロン/ガウン、マスクを外す毎に手指消毒を行う。 退室時も必ず手指消毒を行う。
③ 患者移動	病室への移動は医学的に必要な検査時にのみ限定し、患者はサージカルマスクを着用する。
④ 機械・器具	患者専用とする（血圧計、体温計、聴診器、清潔ケア用品、尿器、便器など）。 車椅子、ストレッチャーは使用後除菌クロスで清拭消毒を行う。0.05%（500ppm）の次亜塩素酸ソーダも有効。 感染廃棄BOXは除菌クロスで拭き、病室より持ち出す。
⑤ 換気	日中部屋の窓は基本的に開けておく。夜も定期的に換気する（1時間に1回程度）。
⑥ 食器類	通常通り
⑦ リネン	通常通り
⑧ 尿・便器	基本的に患者専用のポータブルトイレを使用。使用後は1000ppmの次亜塩素酸ソーダで浸漬消毒。 トイレの便座や水道のハンドルも消毒（除菌クロスでも可）の対象となる。

⑨清掃	患者が触れる場所（特にベッド柵、オーバーテーブル、ドアノブ、ナースコールなど）は各勤務帯に1回除菌クロスもしくは0.05%（500ppm）次亜塩素酸ソーダで清拭消毒する。
⑩マットレス	拭き取り清掃が可能なマットレスを選択する。 例）ムレーズマット、Dマット、エアーマットなど

※ 濃厚接触者とは、身体防護具（特にマスク・アイシールド）を装着せずに、約1メートル以内で15分間程度接触（会話）をした場合。

2020. 8. 24
病院感染対策委員会